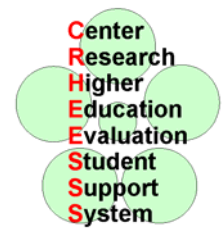


週刊センターニュース

No.139



第 139 号 (2006 年 12 月 25 日) 毎週月曜日発行
発行 : 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL : http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第 140 回共同学習会のご案内

*今回は、角間キャンパスと鶴間キャンパスを双方向遠隔授業システムで結んで行います。

日時 : 2007 年 1 月 11 日 (木) 16 時 30 分 ~ 18 時

場所 : 角間キャンパス総合教育棟北棟 D 14 講義室および

鶴間キャンパス医学部保健学科 5 号館 5104 教室

テーマ : 「大学における基金創設等による外部資金獲得について : 他大学の事例に学ぶ」

発表者 : 岩本健良 (文学部)

趣旨 : 「私立大学はもとより、他の国立大学法人においても、同窓生や企業、現元教職員、市民あるいは在学生の父母等から広く篤志の寄付を集め、経済的に恵まれない学生への奨学、サークル活動や研究の支援、図書充実、施設の改善等に活用する組織体制が構築・強化されている。しかし、金沢大学では、教員には外部資金獲得を訴えながら、全学レベルでは対象限定の「国際交流」後援会があるのみで、組織的・包括的な募金体制はいまだ構築されていない。大学財政が厳しさを増す一方、団塊世代が大量退職する「2007 年問題」を控え、体制作りが急務である。他大学のさまざまな具体例を紹介するとともに、金沢大学における受け皿体制作りを提言する。

(なお、より充実した報告とするために、事前に報告者 iwamoto@kenroku.kanazawa-u.ac.jp 宛に情報やご意見、アイデアなどをお寄せいただければ幸いです。)

地域科学研究会・高等教育情報センター主催のセミナー報告

平成 18 年 12 月 8 日 (金) 東京・永田町の全共連会議室において、地域科学研究会・高等教育情報センター主催のセミナー「新・学士課程教育と教員組織の再構築 学科目制・講座制殻の進化/教育組織と研究組織の分離」が開催されました。

セミナーは、4 名の報告者による 4 部構成で行われました。

それらを報告順序に紹介します。

それぞれの報告者とタイトル名は、第 1 報告が仙波憲一 (青山学院大学)「新しい教養教育システム「青山スタンダード」の開発と展開 教養教育の充実と教育改革」、第 2 報告が早田幸政 (金沢大学)「教員組織改革の現状と方向性 文部科学省委託調査「教員の所属組織」の調査経過を踏まえて」、第 3 報告が濱口哲 (新潟大学)「新学士課程教育システムの構築と全学教育機構の設置 専門・教養科目区分廃止/副専攻制度の開設 分野水準表示法の導入」、第 4 報告が奥純 (関西大学)「1 学科統合から 3 年・新生文学部の改革の実際 2 年次 10 専修から 18 専修へ、自由なカリキュラム設計制度の導入」です。

第 1 報告では、教養教育の今日的意義、「青山スタンダード」の意義とその発足の経緯、青山スタンダード科目の構成と運用、同制度の運用上の課題等について説明・報告がなされました。

第 2 報告では、「教員の職」と「教員の所属組織」に係る制度改正の概要とその改正趣旨、教員組織改革に関する先行研究、文部科学省委託調査「教員の所属組織」の調査の目的・趣旨と調査のアウト

トライン、アンケート調査<大学回答分>の集計結果の分析、アンケート調査<学部回答分>の集計結果(一部)の分析、訪問調査の結果の一部紹介、各大学における当面の取り組み状況と今後の方向性等について説明・報告がなされました。

第3報告では、新潟大学での教員組織改革、教育組織改革に関する新たな取組(「教育研究院」の創設など)、新たな教学組織改革における授業科目の位置づけ、分野・水準表示法(授業科目全てに学問分野を示す「分野コード」とレベルを示す「水準コード」を付す)及び副専攻制度の意義・運用法、「全学教育機構」の設置・運用法等について説明・報告がなされました。

第4報告では、文学部8学科制から1学科多専修制へ移行させた理由・背景、人事システムの改革状況とそうした改革を必然化させた理由、「カリキュラム自己設計制度」導入の意義等について説明・報告がなされました。
(文責:評価システム研究部門 早田 幸政)

日本と韓国のスタッフ・デベロップメント・プログラムの状況

- 私学高等教育研究所国際ワークショップ参加報告 -

平成18年12月14-15日、標記研究所主催の国際ワークショップ「東アジアにおける私学高等教育研究のフロンティア」に参加した。高等教育政策、大学教授職、最近その役割が重要になってきたインスティテューショナル・リサーチなど様々な観点から報告がなされたが、ここではスタッフ・デベロップメント・プログラム(発表者は馬越徹・桜美林大学大学院教授)について簡単に触れたい。

社会環境が厳しくなる中で、それに耐えうる大学の管理運営を効果的に行うために、教員だけでなく、職員の資質向上(SD)も必要不可欠との議論が強まっている。ただ、学位課程を通じた専門的な職能開発が整う米・英国と異なり、日韓ともにそれを享受する機会(制度)に乏しいのが実情である。その中で、私学学長の強いイニシアチブの下、少数の大学院(桜美林大、韓国の亞州大)において大学管理運営スタッフの養成プログラムが始まったばかりである。受講者さらに講師側も、高等教育の現職の実務経験者であることが多く、管理運営に関する実務科目が多数配置されるなど教育課程上の工夫があるほか、スクーリング方法への配慮(土曜・夜間開講、添削)もある。

重要なのは、ゼネラリスト的な視野の広さとスペシャリスト的な豊富な専門知識を併せ持つプロフェッショナルとしての大学職員の確立、そして本人の自覚(何事にもチャレンジする意欲も含め)にあるという(関連する論考は、例えば『文部科学教育通信』誌上の山本眞一氏による連載でも展開されているので、参考にしていただきたい。最近の巻号はセンター図書室所蔵)。ただし大学院でのSDの重要性が今後高まるにつれ、解決しなければならない課題の一つとして、課程修了者(学位保持者)を大学の現場で適切に評価し、有効にキャリアアップしていく仕組みが、両国とも不十分であるといえ、早急な整備が求められるところである。
(文責:評価システム研究部門 渡辺 達雄)

センターからのお願い

センターニュースで取り上げてほしいテーマを募集します。また、センターニュースを読んでのご感想や、当センターへのご要望などをメールにてお寄せください。

さらにセンターでは、共同学習会の話題提供、ランチョンセミナー担当も随時募集しておりますのでご連絡ください。info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp までお願いいたします。

「センターニュース」休刊のお知らせ

来年1月1日の週刊センターニュースは、休業期間にあたりますので、休刊とさせていただきます。次号は1月9日付となります。